

(国語科)

『目的に応じて主体的によく聞き、自分の考えを表現できる子どもを育てる。』

～高見小学校の聞く力のスタンダードモデル～

大阪市立高見小学校 学力向上部

## 1 研究主題、研究目標の設定と研究の進め方

本校では、平成26年度末に、子どもたちの実態からこれからどのような力を付けていけばよいかを話し合い、その中で国語力を高めていくことが必要ではないかという意見が多く出された。そしてまず、考えること、話すこと、書くことなどすべての活動につながる、「聞くことに重点を置いて、子どもたちの力を高めていこう」という研究の方向性を確認した。

平成27年度から国語科を研究教科として、聞く力を高める研究実践をおこなうこととし、「基本的な話の聞き方（話し方）を、身につけることができるようにすること」「学習課題を明確にすることで、目的をもって話を聞くことができるようにすること」「メモの取り方を工夫し、それをもとに自分の考えを話したり、書いたりできるようにすること」を研究目標とした。また、平成28年度からは、「話し手の伝えたい大事なことを、聞き取ることができるようにすること」「話型を活用し、聞いたことにつけたしたり、質問したりすることができるようにすること」という目標にステップアップした。

また、若手教員を中心に立案した、聞く力のスタンダードモデルを意識した授業を研究・実践し、聞く力を構成する要素について検証することを研究の柱とした。

全学年および特別支援学級で授業研究を実施し、研究討議会では、聞く力を高める工夫や、自分ならどう指導するかを考え、意見交流をおこなってきた。また、岡山大学の宮本先生から指導助言をいただき、研究を深めてきた。

## 2 聞く力のスタンダードモデル

本校の聞く力のスタンダードモデルの原案については、経験年数5年以下の教員で構成されたメンター研修会の中から導出された。若手教員の中から授業の中でどのようなことを意識して授業作りをしていけばよいのか、また学級経営の中で子どもたちに今、どんな力が必要なのかという「問」の中からこのスタンダードモデル作りが始まった。

「聞く力」における一つのモデルを構築していくことにより、教師もそれを意識した授業の構成をすることで、観点を持った授業になるのではないかと考えた。これまで行った授業研究での指導内容や討議の記録、学習指導要領、教科書の分析を行っていく中で、「感想」「主張」「質問」「比較」の4つの項目に分類することとした。

多くの学年が取り上げているとおり、「聞く力」には「質問する力」すなわち「質問力」が大切であることが研究を進めていく中で徐々に明らかになってきた。質問をするためにはそもそも話し手の話の内容をまず落とさずにしっかりと聞いていないと質問することはできない、もっと言えば相手の伝えようとすることに積極的に耳を傾けて聴くことにより、後から話し手に訊く（質問する）ことができる。また、全学年に共通して「聞く力」は「話す力」も共に重要になってくること、すなわち「良い聞き手」は「良い話し手」であることが大切であると考えられることもできた。

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支 (6年)
教材 名	わたしの はっけん	まよい犬を さがそう	インタビ ューをし てメモを 取ろう	メモの取 り方をく ふうして 聞こう	立場を決 めて討論 をしよう	新聞の投 書を読み 比べよう	海 の い の ち
感想	発表を聞 いた感想		経験をも とにした 感想				心情の変 化や作者 の思い
主張					説得力の ある理由	根拠のあ る主張	
質問	くわしく 知りたいこ とについて の質問	必要な情 報を得る ための 質問	話し手の 答えから さらに広 げる質問	必要な情 報を補う ための 質問	相手を納 得させる 質問		
		質問に適 切に応じ た答え			質問に適 切に応じ た答え		
比較		メモの 取り方の 比較	考えの 交流 発表のよ さを認め る評価	聞いたこ との正確 さを確認 他のメモ への共感	理由を明 確にした 評価	批判的に 考える なかでの 共感	友だちとの 意見交流

### 3 研究の成果と今後の課題

#### (1) これまでの成果

- ◎スタンダードモデルが、授業を構成していく指針となった。
- ◎指導目標の設定や指導計画を立てるための指標となり、指導の重点が明確になった。
- ◎聞く力を高めるための討議の柱とすることで、検証をすることができた。
- ◎4つの観点から各学年で児童に付けていきたい力を具体的に導き出すことができた。

#### (2) 児童に見られる成果

- ◎話し方聞き方を意識したり話型を使って発表したりすることができるようになった。
- ◎目的に合わせて、必要なことがらをメモすることができるようになった。
- ◎友だちの意見に共感したり違う考えを受け止めたりすることができるようになった。
- ◎聞いたことに対して感想を言ったり、質問をしたりすることができるようになった。
- ◎相手の発言をよく聞き納得できる意見やよい考えを選ぶことができるようになった。

#### (3) 今後の課題

- スタンダードモデルを確立するために、4つの観点における各項目のさらなる検証をすること。
- 児童の実態を踏まえ、スタンダードモデルを意識して、日常の授業を実践すること。
- 児童に付けたい力に結びついているかどうかの検証をすること。
- 全教員が指導の重点や授業のポイントを考え具体的に実践する力を身に付けること。